

## 平成22年度第1回（第13回）磯辺地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

**1 日時** 平成22年6月7日（月） 10時～11時55分

**2 場所** 磯辺地域ルーム（磯辺第一中学校内）

### 3 出席者

(1) 委員 22人

欠席：今井委員、木村委員

(2) 事務局 高須課長、古舘主幹、加茂主査、安井主査補、松木主任主事

(3) 傍聴者 17人

### 4 議題

(1) これまでの協議経過等について

(2) 統合の組み合わせ・時期・順序について

(3) 次回開催日時・場所について

### 5 会議資料

(1) 資料1 平成22年度磯辺地区学校適正配置地元代表協議会委員名簿

(2) 資料2 平成21年度第5回（第12回）磯辺地区学校適正配置地元代表協議会における合意事項について（お知らせ）（平成22年3月16日付）

(3) 資料3 昨年度提示した資料のまとめ

### 6 会議の概要

(1) 平成22年度協議会委員の確認

資料1「平成22年度委員名簿」について確認・了承され、教育委員会ホームページに公開することとした。また、委員名簿の公開について、出席している委員の了解を得た。

(2) これまでの協議経過等について

資料2をもとに、昨年度までの協議事項の経過について報告された。

(3) 統合の組み合わせ・時期・順序について

資料3をもとに、磯辺地区の現状について確認された。小学校の統合については、これまでどおり統合シミュレーション4を基本として考えていくこととなった。また、統合の時期と順序について、各委員から意見が出された。統合の組み合わせ・時期・順序については、次回の継続審議とし、それぞれの団体におろして検討を行うことになった。

(4) 次回開催日時・場所について

今年度協議会も昨年度同様月曜日の午前中に開催することが合意され、次回は平成22年7月12日（月）午前10時から12時、磯辺地域ルームで開催することとした。

## 7 発言要旨

### (1) 会長挨拶

今年度も会長を務める。拙いところもあるかと思うがご協力いただきたい。知らないことはやれない、というのが私のモットー。意見は積極的に出していただきたい。悪いことを並びたてても進歩はない。前向きで建設的な意見交換をお願いしたい。

### (2) 議題

#### 議題1 これまでの協議経過等について

<鳥越議長>

まず事務局に資料の説明をお願いします。

<事務局>

平成21年度の第12回協議会において、「磯辺第一中学校区・磯辺第二中学校区では小・中学校の統合がともに必要である」との合意を得て、22年度は引き続き統合の順序・時期・場所等、統合について具体的な議論を進め、更なる合意形成を図っていくこととなった。合意の元になったのは、第11回協議会を踏まえて実施した保護者対象アンケート調査の結果である。具体的なアンケートの集計結果は資料2を参照していただきたい。

#### 議題2 統合の組み合わせ・時期・順序について

<鳥越議長>

議題2に移りたい。まず事務局に資料の説明をお願いします。

<事務局>

資料3「昨年度提示した資料のまとめ」をご覧ください。

##### ・小中学校の推計（1ページ）

22年度については5月1日時点の実数、23年度以降は昨年度の値を用いている。今年度の推計はもう少し時間をいただきたい、5月1日現在の状況をもとに現在計算中であり、次回協議会では最新の推計値を提示できる予定。

##### ・小学校の生徒数及び学級数の説明（1～3ページ）

平成20年度と21年度の推計では、磯辺三小小学区では開発状況が変化したため、21年度はニチロ跡地の開発の見込みを加味しておらず、推計値が下がった。その後、開発計画の変化があり、今年度は再び見込みを加味する予定。また、川鉄ナビールの跡地の開発をするという情報があるが、時期等が不明なため、わかり次第推計に反映させる予定。

シミュレーションについては、協議会の「考えられ得る組み合わせを提示してくれ」という要請に基づき、提示したもの。シミュレーション1は規模の偏り、シミュレーション2は通学距離の偏り、シミュレーション3は一小の学区が分断されるといった問題点が指摘された。シミュレーション4は当協議会において話し合いのたたき台になっているものである。

##### ・中学校の生徒数及び学級数の説明（4～5ページ）

統合しない場合、純粹に現行の2つの中学校を統合した場合、小学校の統合シミュレーション4を踏まえて、中学校区を調整したうえで統合した場合、などのシミュレーション。

##### ・学区図（6～7ページ）

学区図を見て小中学校の規模がどうなるかを記載した。学区図3が現在たたき台になっているもの。

※学区図4の説明文②について訂正（“磯辺第四小小学区の磯辺3-34から”を削除）

・小中学校の統合の時期と順序について／校舎等の状況（8ページ）

統合準備には少なくとも1年かけることが望ましい。真砂地区及び高洲地域では要望書提出から開校まで1年半、高浜地域では2年となっている。花島小のように単年度内で統合による新設校開校準備をすることは現場への負担が大きかったことへの反省を踏まえている。

統合順序は、小学校で統合を経験した子どもが中学校でまた統合を経験することを避ける必要があるか、を考える必要あり。避ける必要がある場合に考えられる統合順序の説明。

統合場所の議論にあたり、参考までに各校の校舎の状況を説明。どの学校を統合場所としてもキャパシティはある。企業庁から借用している土地については、学校として使用している間は無料で借用できるが、学校でなくなった場合は更地にして返却する。

<鳥越議長>

質問はあるか。

<村上委員>

4ページ、アを見ると現状は、ほぼだいたい各学年3クラスの9クラス、二中については学区を変えない限り、推計では27年度まで各学年ほぼ3クラス、一中は来年度あたりから一部クラスが減ったりする、ということではないか。

<事務局>

昨年度までの推計ではそうである。

<村上委員>

次のときまでに出る、新しい推計では増えるのか。

<事務局>

出してみないとわからないが、今までの毎年の推計を見ると大きな変化は無い。一中については9ないし8、二中は9くらいで推移、場合によっては8になる、という状況だろう。小学校の統合に伴いどうなるかがイなどの状況。

<村上委員>

1ページ、小学校については、いずれにしろ現状のままだと二・四小が1学年1クラスで推移するだろうということか。

<事務局>

昨年の推計ではそうである。

<村上委員>

二・四小は大きな変動がない、そういう状況か。三小は学区変更が無い限り1学年2クラス程度か。そういう中で考えると、小学校については1学年1クラスの学校が多いので、先に検討したほうがいいのかという印象を持った。

<水谷委員>

8ページ、これは小中同時統合ということになるのか。

<事務局>

真砂地区について、そういう要望が上がった。真砂は小学校4校と中学校2校だが、それぞれを2校と1校にするという組み合わせを決めた後、時期については同時にということになり、23年4月に同時に統合校を開校することになった。

<水谷委員>

高洲・高浜地区ではどうだったのか。

<事務局>

高洲第一中が現在適正規模、今後の推計でも引き続き適正規模。高浜中学校は9学級規模。統合シミュレーションを出したが、24学級内にはなるが、若干大きめの統合校になるので、ひとまず中学校の統合については継続審議として状況を見ることにし、小学校を先に進めることになった。この地区は高洲一中には高洲一・二・三小、高浜中には高浜一・三小と磯辺二中学校区ではあるが高浜二小と、小学校が3校ずつあるということで、そのうち小規模小学校である高洲一・二小と高浜二・三小を先に統合する、という合意がなされた。その結果、1中2小の学区が2つ生まれる。ここが磯辺地区と違うところである。(磯辺地区の場合、小学校を統合し、中学校を統合しないと、1中1小の学区が2つ生じることになる。)

<大浦委員>

学校の土地の借用の問題、企業庁から借用している学校は、将来的にデメリットが発生することはあるのか。

<事務局>

学校として使用している場合は無償という契約を更新している。契約では、学校でなくなった場合は、更地にして返却することになっている。

<別所副会長>

幸町地区と稲毛海岸・高洲地区については再開発絡みで協議が中断しているという理解でいいのか

<事務局>

稲毛海岸・高洲地区は大規模な開発の計画が複数個所で上がっており、すでに公務員住宅の跡地については、開発が始まっている。したがって、開発状況を注視していく必要がある。幸町地区ではこの磯辺地区と同時期に協議会が立ち上がっている。本地区ほどの合意形成には至っていないが、小学校の小規模化が進んでおり、幸町第四小では今年度入学生が9人という厳しい状況であるので、今年度も引き続き話し合いを継続することになっている。

<吉岡会長>

土地の問題ではなく、教育の問題が本協議会の趣旨である。子どもたちにとってよりよい教育環境を整えることを第一とし、先ずはその観点で協議いただければありがたい。

<村上委員>

8ページ、校舎の状況で、体育館は耐震診断されておらず実施予定となっているが、これについては具体的にはいつごろか。

<事務局>

耐震診断は行っている。手元に資料がないので申し訳ないが、「予定」と記載している場所については、診断を行った結果、耐震補強をする必要があると判断された体育館と考えていただきたい。優先順位を決めて計画的に補強を行っている。

<村上委員>

議事録を公開するときに時期について追加で記載してほしい。

<事務局>

所管が学校施設課になる、そちらに確認して、公開できるものであれば掲載する。

※資料3の8ページに計画予定年度を追加した。

<藤岡委員>

美浜区でも幸町では体育館は耐震補強が進んでいる、体育館で耐震補強が入ると1年くらい使えなくなると聞いている。

<村上委員>

それでこの質問をした。

<平口委員>

校舎の耐震についてはどうなのか。

<事務局>

校舎についても計画があるので、計画に沿って補強工事をしていく。

<平口委員>

それは統合する・しないに関わらず、必要な学校はどの学校も計画されているということか。

<事務局>

統合校が決まれば、それに伴う改修によって前倒しで行うことがあるかもしれないが、統合の話し合いとは別個に必要な学校の耐震補強については進めていく。

<平口委員>

もともと磯辺地区の学校は建設から30年前後経過している。教育委員会では校舎の寿命をどのくらいを考えているのか。

<事務局>

実際には状況によるというのが正確な回答かと思う。RCという鉄筋コンクリートの建物は一般的に耐用年数が60年と言われているが、それより短くても痛みが激しいところ、長くても状態を保つところはあるので、それぞれ診断して優先順位を決定し、その順番に補強することが必要である。磯辺一中・二中など新基準と記載しているのは補強の必要が無い、という意味である。

<村上委員>

今の耐震補強の関連は教育だよりの昨年10月号に詳しく載っている。

<平口委員>

緑町小の建て替えをしていると聞いたが、築後何年か。

<事務局>

築後何年かについては現在手元に資料がないのでお答えできない。耐震判断をした結果、耐震補強では補強しきれないことなどがはっきりしたために建て替えを行うこととした。

<鳥越議長>

それでは、資料をもとに、統合の組み合わせ・次期・順序について協議したい。まだ新しい推計も出ていないところなので、本日は、決定のための協議とはせず、委員の皆様の率直な意見交換の場としていただき、その内容を各団体におろして次回につなげたい。

まずは小学校の統合の組み合わせについては、これまでどおり統合シミュレーション4を基本として進めることでよろしいか、意見を伺いたい。

<平口委員>

小中学校、どちらを先にするか、一緒にするかによって、配置が変わってくるだろう。そういった状態で、いきなりシミュレーション4で、と決めるのはどうかと思うが。

<石塚副会長>

子どもの人数を見た上で、適正規模、という話の中でシミュレーション4、ということだと思いがいかか。子どもにとって、よりよい学校生活を送れるように、学級数や先生の数を確保すると考えるとシミュレーション4が基本となるだろう、ということだ。統合場所や順番については別の議論だと思う。

<竹内委員>

シミュレーション4はこれまであくまでたたき台、という捉え方だったが、人数や規模の着眼点から出てきたものであろう。人数という観点のみによる学校単位の切り分けではなく、観点を定めることも必要かもしれない。本来、学区全体を捉えたときに線引きをどうするか、学区の分け方をどうするかを考える必要もあるのではないか。そういったところを掘り下げて議論したい。

<吉岡会長>

具体的には何か良いお考えはあるのか。

<竹内委員>

それは、今は無い。たたき台として活用するのはいいが、確定論として進めるのはどうかと思う。

<石塚副会長>

シミュレーション4で確定ということではなく、これまでどおり、たたき台としていって良いかということだと思うが。

<高橋委員>

これまで、現状の小中学校の規模と配置を基本にして検討してきたわけであり、全部元に戻して大幅に学区を編成し直すということになれば教育委員会の仕事になる。学校ごとにコミュニティが形成されているので、全部線を引き直すというのは生活実感から離れていくことだ。

<竹内委員>

ゼロまで立ち返ってやるべきだとは私も思わないが、様々な観点から考える必要はあると思う。

<村上委員>

バランス的にはシミュレーション4がいいだろうという皆さんの認識だと思う。竹内さんがおっしゃったのは、たたき台をベースにするけど、マイナーチェンジとして校区を一部変えて、両方がバランスよく進む考えもシミュレーション4に含まれるということだろう。シミュレーション4できっちり決まっているのではなくて、それをベースに意見交換していけばよい。そういう意見として私は理解している。

<竹内委員>

実際に学区をどうしようという考えはないが、議論が規模（数字）だけの世界で進んでいる気がしたので発言した。様々な観点も交えて、今後議論していきたい。

<鳥越議長>

シミュレーション4については、これまで（平成20年度から）議論を重ねてきており、それを踏まえて基本として考えていこうというこれまでの話だった。修正が必要であれば、いまおっしゃったように、どこを変えればいいのかという議論をこれから進めることが大事である。それを念頭に置いて今後協議を進めたい。

<橋爪委員>

シミュレーション4に関しては、子どもの数の関係もあるかもしれないが、小学校の保護者からの要望が一番多かった「通学路の安全面」を考慮して、大きい道路（マリーナストリート）で区切ることが妥当だとの判断があったと記憶している。決して子どもの数だけで決まったわけではないだろう。シミュレーション4を土台にして進めることでいいと思う。

<水谷委員>

事務局に聞きたい。シミュレーション4で見たときに、磯辺一・二・四小が統合したら適正規模となり、専科教員も配置できる。磯辺三小はこのままであると、専科教員が配置できる規模とはならない。これは、教育環境の不均衡を解消するという適正化の趣旨から外れてこないか。学校規模によって教育レベルが違うということにならないか。

<事務局>

そこが平成20年度から議論されてきた問題の一つである。先ほど説明したとおり、21年度の推計では、磯辺三小が低く見積もられており、今回の資料はそれに基づいている。したがって、最新の開発状況を加味した今年度算出する推計値に注目する必要がある。また、磯辺一小の脇にある野球場が今年度中に企業庁に返却することになっている。その後の用途についての情報は現在不明であるが、仮にその土地の開発があった場合、（開発の規模にもよるが）その子どもを磯辺三小に通わせることで教育環境の不均衡を解消できるとの案もこれまでの協議の中であったと思う。

<村上委員>

マリーナストリートで区切るという安全面での理由は大きい。結果論としてこの分け方がいいのではないかという話だったと思う。

<鳥越議長>

最新推計をもとに改めて事務局から提示していただく数字が大きく変わらないかぎり、これまでとおりシミュレーション4を基本として議論したいので、それぞれの母体団体に話し合ってもらいたい。

次に、統合の時期と順序について、各委員からの意見を伺いたい。

<(磯辺第一小保護者代表)委員>

昨年度末の「保護者共通アンケート」の結果を受けて、統合の早期実現に対する責任を感じている。検討すべき課題もあると思うが、一方で、1次の取り組みから長きに渡り統合を心待ちにしている方も少なくないということも念頭に入れて取り組んでいきたい。

磯辺一小でのアンケート結果では、小中同時、次いで中学校を先にとという要望が多い。これは、二度の統合を経験せずに、小中ともに出来るだけ早い統合を望んでいることと考えられる。

早期に統合を実施することを考えたとき、問題が解決したところから順次にとという進め方もあるのではと思う。聞きたいのだが、真砂地区で21年9月の要望書提出から23年4月統合までの長さを考えると、磯辺でも今年度に何らかの形で9月ころまでに要望書を出せば、24年4月に統合校を開校することは可能なのか。

<事務局>

真砂地区については小中同時に、統合の時期と場所を含め合意事項を「要望書」として21年9月に提出していただいた。統合時期は、準備に十分な期間（1年半）をかけられるよう、23年4月となった。教育委員会では、「要望書」の内容を審議し、適切であると判断し、その内容どおりに市として統合を決定した。

高洲・高浜地区は先ず、高洲一小・二小の統合が合意し、21年9月に「要望書」として提出され、その後、高浜二小・三小の統合が22年3月に合意した。その時点では、統合時期を翌年4月とすると準備期間が1年しかなく、短いだろうということで24年4月に開校するとの内容で「要望書」が提出された。したがって、磯辺地区においても、統合の合意がいつなされるかによって、統合時期の要望内容も変わってくると考える。

< (磯辺第一小保護者代表) 委員 >

もし小中とも早期統合を目指すのであれば、小中分けて「要望書」を出すことも可能だろうか。たとえば、中学の合意が先に成れば、中学の統合について先ず「要望書」を提出し、その後、小学校の統合について「要望書」を提出してもよいのか。

< 事務局 >

出し方については、まとめて、分けて、というのは地元の話し合いの状況によって違うので構わない。

< (磯辺第一小保護者代表) 委員 >

そういう可能性もあるということ踏まえて、協議の順番を考えていけたらいいと思う。

< 平口委員 >

磯辺二小では、今までの話し合いの経緯等を含めて、全員参加を前提に保護者対象に5回に分けて説明会を進めており、3回まで終了した。皆さんいろいろ意見があり、聞かなければいけない意見が沢山あるということ強く感じた。今回、代表として意見を言う立場ではないと思っており、全ての説明会が終わった上で意見を言いたい。

< 竹内委員 >

私見ではあるが、小学校の状況を踏まえると、急いだほうが良いと思うところもあるが、2回経験をさせない観点はあったほうが良いと思っている。中学については急がなくてもいいのかなという感覚を、資料を見て持っている。どちらが先というより、必要なところにまず手を入れる、ということが大切かと思う。教育ということ考えたときに、ある程度的人数がいたほうが良いのだろうと思う。二・四小の状況を踏まえて小学校を前に進めるよう努力したい。

< (磯辺第四小保護者代表) 委員 >

磯辺四小はなるべく早い時期に、2回経験をさせないという考えの下、小中同時に進めるのがいいと思っている。

< 吉田みどり委員 >

磯辺一中は、昨年度行ったアンケートによると保護者の意見としては小中を同年度になるべく早く行ってほしい、また、中学校を先に統合してほしい、という2つの意見が出ている。保護者は一小の子どもが2つの中学に分かれて通わなければならないことと2度統合を経験することを心配している。中学では生徒数を増やすことで、部活や学校行事の活性化を望むことから統合を進めてもらいたいという意見が多い。

< 橋爪委員 >

磯辺二中はそこまで切羽詰った状況ではないので様子を見るという意見が多いが、地域全体の状態を見て、進めることが必要であると認識はしている。先に小学校を統合した場合、1小1中の学区が生じる。個人的には、中学は複数の小学校からいろいろな地域の子どもが集まって構成されるものという感覚があるので、1小1中の学区は少し心配である。中学を先に、という意見があるが、中学は受験があるので、準備期間は小学校より多くとる必要があるのではとも思う、保護者だけではなく現場の先生の意見も伺う必要があるのではと感じている。

< 鬼塚委員 >

24年度に開校する高浜二小と高浜三小との統合校は、中学校区が高浜中になるので、磯辺地区の議論について何か言える立場ではないのかと思うが、これまで磯辺二中区であった高浜3丁目に住む子どもたちは、希望により引き続き磯辺二中への通学も認められるので、磯辺地区の中学の統合場所に関心のある保護者もいる。

< 池上委員 >

中学校で部活ができない、という現状があるので、早く統合したほうがいいのではと思う。

< 高橋委員 >

できるだけ早く小学校を統合してほしい、中学も同時期がいいと思う。

< 近藤委員 >

早く、小中同時に統合するべきと思う。

< 安達委員 >

今までは、準備が整ったところから慌てずにやったらどうかと思っていたが、ここ数回の話し合いの中で、決まるなら早くという考えになった。なるべく早く決めて、小中同時にするのがいいと思う。いつ統合しても中3は受験で大変だと思う、何年先でもそれは同じだろうと思う。

< 山崎委員 >

当初、中学校は統合しなくていいのではと思っていたが、2年間の議論で、中学校の統合も合意されたので、中学校についてどうするのかも含めて、早く議論を進めてほしい。

< 古田委員 >

高浜6丁目では24年度に磯辺第三小学校に学区変更することが今年3月に決まっている。磯辺地区の小学校についてはできたら24年度までに何らかの形が決まってくれたらと個人的には思っている。

< 水谷委員 >

なるべく早い時期に、小中ともに統合したほうがいいと思う。もう一つ、意見を聞いていると学校区によってスピードに差があると思うが、なるべく同じスピードで進めていけたらと思っている。

< 関委員 >

私も小中同時に統合することを基本に進めたほうがいいのではと思うが、必ずしも同時でなければいけないというものでもないので、同時という枠を外して話が決まったところから進めてもいいだろう。基本は同時として、なるべく早い段階で決められるように進めるのがいいのではないかと思う。

< 大浦委員 >

中学校の統合を先にして状況を見ながら小学校を統合するという意見を前回述べた。今でもその意見は変わらないが、二・四小の状況を見て早くということであれば同時もやぶさかではない。

< 藤岡委員 >

同時進行でいいと思う。同時は大変かとも思ったが、2回に分けるより1回で終わらせたほうがいいだろう。1年半から2年くらいの期間をもてば十分可能ではないかと思う。

<村上委員>

小学校は厳しく、中学は安定している状況を踏まえて、小学校を先に検討してその結果を踏まえて中学を進めたほうが生徒にとっては有効ではないかと思う。小中一貫教育という選択肢もあるので、その検討成果も踏まえて中学の統合を進めるのが有効ではないかと思う。小学校を先行したほうがいい。

<鳥越議長>

本日は、各委員からの忌憚のない意見を述べていただいた。統合の時期と順番についても各団体に下ろして検討をお願いしたい。本日の協議は次回の継続審議とする。保護者代表の皆さんには、保護者の皆さんに情報提供を行うと共に話し合いを進めて次回協議会に臨んでいただきたい。

### **議題3 次回開催日時・場所について**

<鳥越議長>

最後に、次回の開催日時・場所を決めたい。昨年度は委員の事情を鑑み、月曜日の午前中に協議会を開催したが、今年度も同様としてよろしいか。(異議なし)

次回は、7月12日、月曜日の午前10時から12時まで、会場は本日同様磯辺地域ルームとしてよろしいか。(異議なし)

この会は傍聴可能なので各団体のみなさんに開催日時の連絡をお願いしたい。

### **(3) 諸連絡**

<事務局>

○議事要旨をHPに公開したいがよろしいか(異議なし)。後日委員の皆さんには案を送付するので訂正等あったら期限までに返送をお願いしたい。返送がない場合は変更なしと見做す。

次回欠席の場合はご連絡いただきたい、代理出席も可能、その点も連絡いただきたい。

○小学校の新入生の保護者を対象に、これまでの経緯や適正配置の考えかたについて理解していただくために適正配置のリーフレット等の資料を、学校を通じて配布したいと考えている。

### **(4) 教育委員会企画課長挨拶**

本日はお忙しい中お集まりいただき、慎重な協議をしていただきまして大変ありがとうございます。磯辺地区に最もふさわしい学校の適正配置について、合意形成を目指すため、ぜひともみなさんには十分な議論をしてご納得をしたうえで結論を出していただきたいと考えております。最後に吉岡会長さんをはじめ、本協議会の委員のみなさんに改めて感謝を申し上げまして挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

### **(5) 閉会**

<吉岡会長>

本日はお忙しい中、お集まりいただき感謝する。いつも感じるがレベルの高い話し合いをしていただいている。自分の子供が立派に育ってほしいというのは親なら誰もが思うことだが、ここから世界に名を成すこどもが生まれてくれば、一芸に秀でて、「あ、あの人か。」というような人がこの地域から出ていけば、といつも思っている。ぜひ、日本を背負って立つ子供たちに育ててあげてほしいと願っている。